

第3分科会—5

誰もが笑顔で働ける職場へ

働きやすい環境作り

外国人人材の定着

地域との連携

～ 外国の方が安心して楽しく働ける体制づくり ～

香川県・さぬき市

とくべつようごろうじんほ一む ゆたかそう

特別養護老人ホーム ゆたか荘

そうごうしせつちよう あさくらゆうこ

総合施設長 朝倉 裕子

機能訓練指導員 佐藤 光展

yutaka02@nagaofukusikai.jp

今回の発表の施設
またはサービスの
概要

社会福祉法人長尾福祉会は、さぬき市を中心に障害者福祉事業を7事業、高齢者介護事業を6事業、保育事業を2事業運営しており、今年で創立30周年を迎える。全体の職員数は280名、6年前より技能実習生の受け入れを開始し、現在は特定技能（1号）も含むと9名の外国の方が勤務している。1名は介護福祉士を取得した。

<取り組んだ課題>

- 介護人材を安定的に確保するために、今注目されているのが外国人材である。
- 技能実習制度が「介護」の分野にまで広がったのち、今後は「人材確保と人材育成」を目的に、「技能実習」から「育成就労」へ移行を国が推進している。
- 外国人を採用するにあたり、人を育てるのに大切な事は何か、コミュニケーション技術・介護記録・夜勤シフト・介護福祉士国家資格の取得等、日本人同様のスキルアップが望めるか等の不安も抱えているのが現状であり、今後の課題でもある。

<具体的な取り組み>

- 長尾福祉会では6年前にベトナムから技能実習生を受け入れたのが始まりで、現在は2つの事業所で外国の方が活躍している。
- 国の進める方向性に沿って、時代の変化に対応した多様な人材を育て、介護職をより魅力ある仕事に変えていくためにできる事がないかと考えた。
- 外国の方も安心して楽しく仕事ができる体制づくりが、日本人にとっても「働きやすい職場」に繋がると思い、業務内容や環境を検討した。
- 安心してやりがいを持って仕事ができるよう、職場や地域が協力し、プライベートも充実して心も豊かに暮らせる事を意識した。
- 一緒に地域に出向いて、日本の文化や生活習慣を学ぶ機会を持ったり、災害が多い国で働く外国の方が安心して暮らせるように、地域の防災訓練に参加する等地域住民としてのサポートもきめ細やかに行った。

<活動の成果と評価>

- 多様な人材に対応する気持ちで、まずは外国の方が何に悩み、困っているかを把握する事に努めた。
- 特別養護老人ホームでは、通常の新採用者の3倍の期間をマンツーマンでのサポート期間とし、夜勤シフトに入るまで1年を要した。
- コミュニケーションが上達できるように、勤務シフトの中で日本語が学べる時間を確保したり、指導職員も基本に立ち返って、わかりやすくゆっくりと話しかける事で、利用者にも伝わりやすいことを再発見するなど、双方にメリットが感じられた。
- ユニット施設で受け入れる事で、利用者の様子を覚えやすく、夜勤シフトに入れる期間が短くなるなど、受け入れ先で働きやすさも変わる事がわかった。
- 地域のイベント情報を知らせ、一緒に参加する事で、地域に早く馴染み、日常生活にも楽しみを感じられたり、日本の文化を学ぶ機会にもなった。

<今後の課題>

- 今後、少子化で介護に携わる職員も減少してくる。少ない人材で安全な介護を提供する為には、経験や勘を頼るのではなく、ICTの活用も必要であろう。
- 国が推進している「育成就労」で働く外国人を、日本人と同等レベルで長く働いてもらうための教育システムが課題であり、国家資格取得しながらスキルアップできる職場環境も整備していきたい。
- 仕事以外にも、日本の文化に触れたり、日々の生活が楽しめるサポートもあれば、日本で長く働きたいと思う外国の方も今後増えてくるのではないかと思う。